

「鳥居基金」助成実施報告 (TE-86)

氏名：深井 稜汰

(東京工業大学大学院地球惑星科学専攻)

助成：海外派遣

課題：The 47th Lunar and Planetary Science Conference での研究発表

期間：2016年 3月21日～25日

本文：

このたび採択された鳥居基金助成を、テキサス州の Woodlands で行われる Lunar and Planetary Science Conference(以下、LPSC)への参加費・旅費の一部に用いさせて頂きました。LPSC は物質科学（隕石・惑星探査）に重きをおいた惑星科学の学会であり、5 日間にわたって非常に充実したセッションが続きます。私は3 日目に、"Isotope cosmochemistry"というセッションで、コンドライト隕石の高精度 Nd 同位体分析の結果について、発表しました。

LPSC において特徴的なのは、要求の高い要旨（レターサイズ2 枚に、2 カラムで書く必要がある）と、それに基づいた口頭発表者の選定です。口頭発表の志願者も多い故に、発表者の選定は要旨に書かれている研究内容をしっかりと吟味した上で行うため、一般的にそのハードルは高いと言われています。今回は2 回目の参加ということもあり、要旨の準備に十分な時間をあて、目標としていた口頭発表を行うことができました。結果として多くの同分野の研究者達と議論することができ、学会が充実したものになりました。

フィールドトリップなど、観光としての側面を少なからず持った学会も多い中、LPSC は他に類を見ないほど研究・議論に特化した学会である印象を受けました。21 時頃までポスターセッションが行われ、ほとんどの参加者はコアタイムの終了時間まで残り、議論を続けています。Woodlands はリゾート地で、交通も車移動が主な手段のため気軽に街に出て行くことは難しいためか、多くの参加者は学会に集中し、楽しんでいるように見受けられました。

今回の参加により刺激を受け、来年はより良い発表をしたいと強く思うようになりました。今回は援助のほど、ありがとうございました。

提出：2016年4月23日

以上